

第3回

チベット学情報交換会のお知らせ

とき **11/14(土) 13:15-15:00**

ところ 四天王寺大学 (羽曳野市)
事務局棟6階講堂

チベットから出版される膨大な新資料と日々世界中から発信される大量の研究データ。チベット学は今や一人の学者ではカバーできない分野になりました。今後の研究を発展させるためには、分野の垣根を越えた研究協力体制が必須です。日本チベット学会のサポートと皆様のご支援のおかげで、チベット学情報交換会は第3回目を開催できるまでになりました。今回は以下の方々にお話いただきます。

世話人：岩尾一史・西田愛

「チベット古典詩の世界」

根本裕史
ねもと ひろし



広島大学大学院文学研究科 准教授

専門はチベット仏教・古典文学。現在の関心は14～15世紀頃のチベットにおける仏教思想と古典詩の接点を探ること。ツォンカバの有名な作品『縁起讃』を多角的な視点から捉え直す研究に取り組んでいる。

「現代ラサと民間信仰」

村上大輔
むらかみ だいすけ



早稲田大学文学学術院 非常勤講師

専門は社会人類学、観光学、聖地巡礼と宗教民俗学。

「skung yig について」

三宅伸一郎
みやけ しんいちろう



大谷大学文学部 准教授

いわゆる「後伝期」にアムド地方で活動したボン教指導者たちの業績をチベット宗教史上に位置付けたいと模索中。一方で、寺本婉雅の再評価を試みたいと考えている。

西沢史仁
にしざわ ふみひと



大谷大学真宗総合研究所 特別研究員

専門は仏教学・チベット学。最近では、チベットの歴史書や伝記類にも関心があり特にカダム派やサンブ寺の研究に専念している。

「学会報告 第4回若手チベット学研究者国際会議」

海老原志穂
えびはら しほ



東京外国語大学 AA研 研究機関研究員

2003年からアムド・チベット語の調査をはじめ現在にいたる。ラダック語、バルティール語など西部のチベット語とアムド・チベット語との比較に興味をもっている。(チベット文学研究会で行っているチベット現代文学の翻訳・紹介が最近の生きがい)

西田愛
にしだ あい



神戸市外国語大学 客員研究員

古チベット語古い文書の研究を通して、古代チベットの文化や民間信仰を探求することに取組む。最近では病氣治療と占いの関係にも関心をもっている。

別所裕介
べっしょ ゆうすけ



広島大学大学院国際協力研究科 特任助教

1972年三重県出身。2009年9月博士号取得(広島大学)。専門は文化人類学。チベット高原という特異な生態条件を背景とした国家と民族の関係を、「辺境の“3K”(=開発・環境・観光)」というキーワードから読み解いている。

▷「チベット学の最新情報」 <http://tibetanstudiesinformation.blogspot.jp>

本ブログでは書籍、論文、研究会、催しなどの情報を発信しています。新着情報があればどうぞお寄せ下さい。